

**アドイン照合 TypeB プログラム  
for アシストパック Pro BHT-1500  
取扱説明書 第1版**



2017年 9月 20日  
コンピュータ・アシスト株式会社



## 目次

1	プログラム概要 .....	1
2	プログラムのインストール .....	2
2-1	アドイン照合 TypeB プログラムダウンロード.....	2
2-2	照合プログラムの動作設定.....	4
1)	データ区分 .....	5
2)	照合条件設定 .....	12
3)	データ保存 .....	17
4)	設定更新 .....	19
2-3	業務設定更新.....	20
3	アドイン照合プログラム実行 .....	21
3-1	照合処理画面.....	22
3-2	入力／データ処理エラー表示.....	23
3-3	照合データ送信.....	24
3-4	マスターファイル受信.....	25

## 1 プログラム概要

アシストパック Pro BHT-1500 のアドイン業務プログラムとして動作する照合プログラムです。

業務メニュー ▼

1. バーコード照合

F1 Ver SCAN 送信 M2 実行

M2 実行

バーコード照合

データ区分

M1 終了 M2 確定



バーコード照合

照合元

M1 戻る M2 確定

照合元  
バーコード  
読取



↑ 照合終了  
次の照合へ

バーコード照合

照合元 4912345678901

照合先

M1 戻る

照合先  
バーコード  
読取  
照合OK



バーコード照合

照合元 4912345678901

OK



バーコード照合

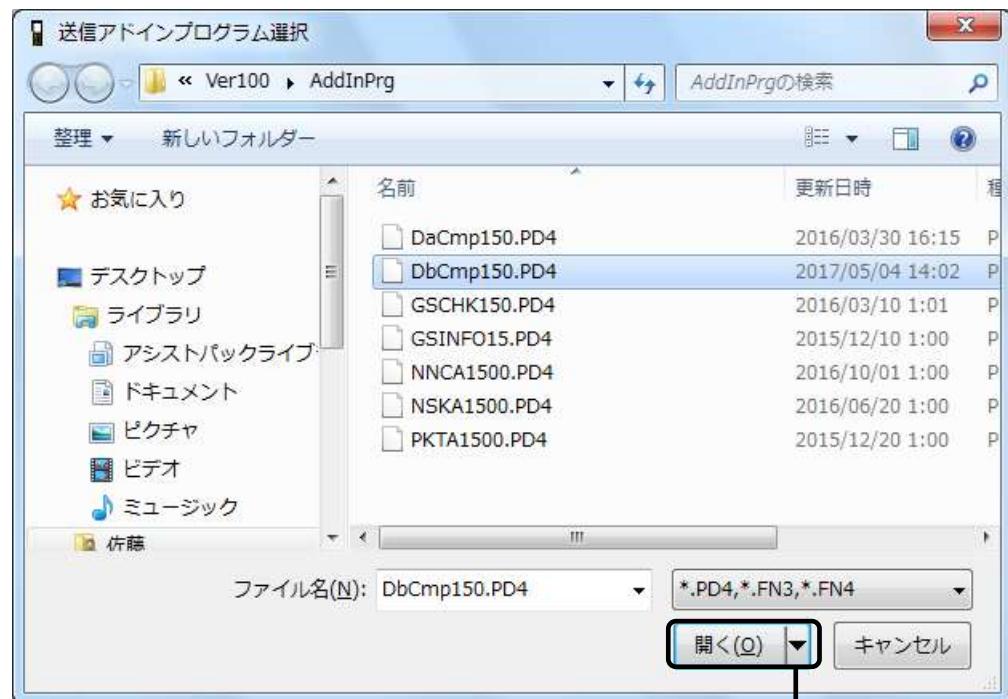
追加データ

M1 戻る M2 確定

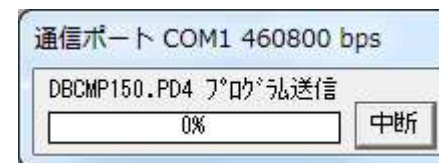
## 2 プログラムのインストール

### 2-1 アドイン照合 TypeB プログラムダウンロード

アドイン照合 TypeB プログラム「DBCMP150. PD4」をBHT-1500にダウンロードします。



DBCMP150. PD4 を  
選択してクリック



**サブメニュー**

1. システム情報表示
2. 日付時刻設定
3. HtNo 設定
4. Bluetooth 設定
5. 業務設定受信
6. 業務設定送信
7. バーコード読取テスト
8. 全データ消去
- 9. ファイル受信**
10. リモート受信

**M1** 戻る **M2** 実行

**M2** 実行



**ファイル受信**

通信ポート選択

- 1. CU-USB (460.8K)**
2. Bluetooth

**M1** 戻る **M2** 選択

**M2** 選択



**ファイル受信**

通信ユニットに  
セットしてください

**M1** 戻る CU-USB



通信ユニット  
にセット

通信ポート COM1 460800 bps

DBCMP150.PD4 送信中

43%

中断



プログラム転送

正常終了

OK

## 2-2 照合プログラムの動作設定

業務設定において、動作モードに「アドイン業務プログラム」を選択し、プログラム名に「DBCMP150.PD4」を設定して「アドインプログラム設定」ボタンをクリックしてください。

「アドイン業務プログラム」を選択

業務設定(照合+数量入力サンプル.bnf)

新規作成 開く 保存 送信データ一覧表示 業務設定送信 業務設定受信 開じる 終了

業務追加 業務削除 ケルプ項目追加 ケルプ項目削除 データ項目追加 データ項目削除

設定画面選択

基本設定 動作設定

業務メニュー

照合+数量入力

BHT-1500画面

照合+数量入力

設定する  
アドイン業務プログラム  
の画面表示に  
なります。

業務名 照合+数量入力 (半角15文字以内)

動作モード アドイン業務プログラム プログラム名 DBCMP150.PD4

アドインプログラム設定

「DBCMP150.PD4」を入力

このボタンをクリックしてください

## 1) データ区分

担当者コードなどのデータ区分項目を3項目まで設定できます。「データ区分」をクリックして「データ区分項目数」を選択肢し詳細を設定してください。データ区分を使用しない場合は「データ区分項目数」を0にしてください。

照合+数量入力 照合プログラム設定 (BHT-1500)

ここをクリック → **データ区分**

データ区分項目数 **3**

データ区分1  
 項目名 データ区分 1      データ形式 文字列  
 入力桁数 最大 6 最小 1      データ表示 横倍  
☒ バーコード使用      バーコード読取      マスター参照

データ区分1  
 項目名 データ区分 2      データ形式 文字列  
 入力桁数 最大 10 最小 1      データ表示 標準  
☒ バーコード読取      バーコード読取設定      マスター参照

データ区分1  
 項目名 データ区分 3      データ形式 文字列  
 入力桁数 最大 20 最小 1      データ表示 標準  
☒ バーコード使用      バーコード読取      マスター参照

データ区分項目数を設定します。(0~3)

設定項目	説明
項目名	入力項目の表示文字列を入力します。
データ形式	文字列, 数字(0 詰め表示), 数字(0 7 <sup>桁</sup> 表示), 日付(YYYY/MM/DD), 日付(YY/MM/DD), 日付(MM/DD), 時刻(HH:MM)から選択します。
入力桁数	データ形式が文字列, 数字(0 詰め表示), 数字(0 7 <sup>桁</sup> 表示)のデータ入力桁数を、最大, 最小で制限します。
データ表示	入力データの標準表示, 横倍表示を設定します。
バーコード読取	[バーコード使用] をチェックして、[バーコード読取設定] ボタンをクリックするとバーコード読取設定画面を表示します。
マスター参照	[マスター参照] ボタンをクリックするとマスター参照設定画面を表示します。



## ①データ区分におけるバーコード読取設定

データ区分1 バーコード読取設定 (BHT-1500)

読取バーコード

☐ JAN/EAN/UPC ☐ 雑誌コード

☐ ITF ☐ なし ☒ あり ☐ STF ☐ なし ☒ あり

☐ NW7 ☐ なし ☒ あり ☒ Code39 ☐ なし ☒ あり

☐ Code93 ☐ GS1-128/EAN-128/Code128 ☐ GS1 DataBar

☐ ユーザー定義

読取桁数 最大  桁 最小  桁

☐ JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

☐ ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない

データフォーマット

☒ データチェックを使用する

チェックデータ位置  桁目から

チェックデータ

チェック方法

バーコードデータ

データ選択  桁目から  桁

☒ 指定文字を削除する 削除する文字

キャンセル 確定

「1桁目から6桁」と設定した場合は、読み取ったバーコードデータの「1桁目から6桁」がデータ区分のデータになります。

「99桁目から6桁」と設定した場合は、「末尾から6桁」がデータ区分のデータになります。

設定項目	説明
読取バーコード	使用するバーコードをチェックします。複数バーコードの設定が可能です。読取バーコードを独自に設定する場合は、ユーザー定義をチェックしてバーコード読取内容を入力します。ユーザー定義の場合はチェックしたバーコードの読取は無効になります。
読取桁数	読取桁数の最大と最小を設定します。(1 ~ 3000) NW7 の場合はスタート/ストップキャラクタを含めた桁数を設定します。読取バーコードが最小桁数未満または最大桁数を超える場合は、「バーコード 桁数エラー」と表示します。
GTIN変換	「JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換」をチェックすると、JAN/EAN/UPC のバーコードを読取った場合に GTINコードに変換します。
チェックデジットをデータに含めない	「ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない」をチェックすると、ITF/STF/NW7/Code39 においてチェックデジットを設定してバーコードを読取った場合、チェックデジットを除いたデータになります。
データフォーマット	バーコードのデータフォーマットを「固定長」、「カンマ区切り」、「スペース区切り」、「タブ記号区切り」、「CR記号区切り」、「区切り記号指定」から選択します。データチェック、データ選択で使います。
データチェック	「データチェックを使用する」をチェックして、チェックするデータ位置とデータを設定します。チェック方法は、「一致しなかったらエラー」、「一致したらエラー」から選択します。
データ選択	GTIN変換、チェックデジットをデータに含めない処理をしたバーコードデータからデータ区分の項目データにするデータを選択します。
指定文字を削除	選択したデータから指定した半角文字を削除して入力データにします。3文字まで指定できます。



## ○ 読取バーコード

バーコード	備考
JAN/EAN/UPC	JAN-13, JAN-8, EAN-13, EAN-8, UPC-A, UPC-E + アドオンコード
書籍コード	先頭97のJAN-13と先頭19のJAN-13の2段バーコード読取 読み取ったデータは、26桁のデータになります。 <b>注) JAN/EAN/UPCを同時に指定しないでください。</b>
雑誌コード	先頭49のJAN-13+アドオンコード5桁の合計18桁のデータ <b>注) JAN/EAN/UPCを同時に指定しないでください。</b>
ITF	チェックデジット(モジュラス10)の設定可能
STF	チェックデジット(モジュラス10)の設定可能
NW7	チェックデジット(モジュラス16)の設定可能
Code39	チェックデジット(モジュラス43)の設定可能 数字(0~9), 英字(A~Z), 6種類の記号とスペース
Code93	数字(0~9), 英字(A~Z), 6種類の記号とスペース
GS1-128/EAN-128/Code128	GS1-128, UCC/EAN-128とCode128 数字(0~9), 英字(A~Z, a~z), 記号
GS1 DataBar	リミテッド, エクスパンデッド, エクスパンデッドスタック
ユーザー定義	ユーザー定義チェックボックスをチェックして下記の書式で入力してください。 <第1読み取りコード>, <第2読み取りコード>, . . . . ., <第20読み取りコード> <b>不正な設定をすると、HTプログラムにおいてエラーが発生しますので注意してください。</b>



## ○バーコードのユーザ一定義

読取バーコードのユーザ定義は、ユーザ定義チェックボックスをチェックして下記の書式で入力してください。

＜第 1 読み取りコード＞, ＜第 2 読み取りコード＞, . . . . . , ＜第 16 読み取りコード＞

[illegible]

BHT-BASICプログラミングマニュアル (BHT-1500シリーズ用) より

## ■ 読み取りコード

読み取りコードには、共通商品コード（JAN, EAN, UPC）、インターリーブド2of5（ITF）、Codabar（NW7）、Code39、Code93、Code128、スタンダード2of5（STF）、RSS があります。

☐ 共通商品コード (JAN, EAN, UPC)

書式: A [:[コード] [1文字目 [2文字目] ] [サプリメンタル]]

コードには、次のどれかを指定してください。

コード	バーコードタイプ
A	EAN-13 (JAN-13) , UPC-A
B	EAN-8 (JAN-8)
C	UPC-E

コードを省略すると、上の共通商品コードのどれでも読むことができます。

1文字目と2文字目は先頭文字（国フラグ）であり、0～9の数字で指定してください。

サプリメンタルに**S**を指定すると、サプリメンタルコードの読み取りが可能になります。

□ インターリーブド 2 of 5 ( I T F )

書式： I [: [最小桁数 [-最大桁数] ] [CD]

**最小桁数と最大桁数**は、バーコードの**最小桁数**と**最大桁数**です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数**≤**最大桁数**でなければなりません。**最小桁数**と**最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。



#### □ C o d a b a r (NW7)

書式： N [ : [最小桁数 [-最大桁数] ] [スタート ストップ] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。**最小桁数と最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタです。A, B, CまたはDを指定してください。桁数には、スタートキャラクタとストップキャラクタも含まれます。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-16によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

#### □ C o d e 3 9

書式： M [ : [最小桁数 [-最大桁数] ] [CD]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。**最小桁数と最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-43によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

#### □ C o d e 9 3

書式： L [ : [最小桁数 [-最大桁数] ]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。**最小桁数と最大桁数**の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。**最大桁数**だけを省略すると、**最小桁数**で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。



#### □ GS1-128/EAN-128/Code 128

書式： K [ : [最小桁数 [-最大桁数] ]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

#### □ スタンダード2 of 5 (STF)

書式： H [ : [最小桁数 [-最大桁数] ] [CD] [スタート ストップ]

最小桁数と最大桁数は、バーコードの最小桁数と最大桁数です。2～99の値を指定できますが、**最小桁数≤最大桁数**でなければなりません。最小桁数と最大桁数の両方を省略すると、システムモードで設定された最小読み取り桁数から99桁までのバーコードを読み取ることができます。最大桁数だけを省略すると、最小桁数で指定した桁数のバーコードしか読み取れません。

CDにCを指定すると、チェックデジットが指定されて、バーコードはMOD-10によりチェックされます。桁数にはチェックデジットも含まれます。

スタートとストップは、スタートキャラクタとストップキャラクタに標準、短縮のどちらの形式を用いるかを選択します。Nを指定すると標準、Sを指定すると短縮が選択されます。省略すると、どちらの形式でも読み取り可能です。

#### □ GS1 DataBar (RSS)

書式： R



## ②マスター参照

マスター参照を設定することにより、入力データに関連付けされた情報を表示します。

設定項目	説明
マスターファイル	マスター参照に使用するファイルを設定します。 <b>マスター参照を使用しない場合は空欄にしてください。</b>
検索キーフィールド No	入力データにより検索するフィールド No を設定します。 設定範囲 1 ～ 25
表示データフィールド No	情報表示データのフィールド No を設定します 設定範囲 1 ～ 25
検索データが存在しない場合エラー	設定すると、検索データがマスターファイルに存在しない場合、エラーにします。

### ■ファイル名

ファイル名は、HT内のファイル名と重複しないように、下記の書式で入力してください。

＜大文字半角英数字 1 ～ 8 文字＞、＜拡張子（大文字半角英数字 1 ～ 3 文字）＞

（拡張子にPD3, PD4, EX3, FN3, FLD, EXE, BAT, DLL, JPG, ZIP, TMPを使用しないでください。）

フィールド情報ファイル（. FLD）は、下記の書式で作成してください。

＜フィールド 1 桁数＞、＜フィールド 2 桁数＞、＜フィールド 3 桁数＞、・・・、＜フィールド N 桁数＞

設定フィールド桁数範囲： 1 ～ 25

## 2) 照合条件設定

「照合条件」をクリックして、NG 表示後の動作、項目名、バーコード読取、マスター参照、照合条件と OK/NG 表示ブザーを設定します。

The screenshot shows the '照合+数量入力 照合プログラム設定 (BHT-1500)' dialog box. The left sidebar contains a tree view with 'データ区分', 'データ保存', 'キャンセル', and '更新'. The '照合条件' item is highlighted. The main area is divided into several sections:

- 照合元 (Green box):** Includes '項目名' (照合元), 'バーコード読取', and 'マスター参照' buttons. An annotation points to this section with the text '照合元の設定'.
- 照合先 (Blue box):** Includes '項目名' (照合先), 'バーコード読取', 'マスター参照', and '照合条件' buttons. An annotation points to this section with the text '照合先の設定'.
- 追加データ項目数 (Yellow box):** A dropdown menu set to '3'. An annotation points to it with the text '追加データ項目数を設定します'.
- NG表示後の動作 (Yellow box):** A dropdown menu set to '再入力'. An annotation points to it with the text 'NG 表示後に再入力するか照合元入力に戻るかを選択します'.
- 追加データ1 (Green box):** Includes '項目名' (追加データ1), '入力桁数' (最大 13, 最小 1), 'データ形式' (数字(0プラス表示)), 'データ表示' (横倍), 'バーコード使用' (checked), 'バーコード読取', and 'マスター参照' buttons.
- 追加データ2 (Green box):** Includes '項目名' (追加データ2), '入力桁数' (最大 13, 最小 1), 'データ形式' (文字列), 'データ表示' (標準), 'バーコード使用' (checked), 'バーコード読取', and 'マスター参照' buttons. An annotation points to this section with the text '照合OK後に追加するデータ項目の設定をします'.
- 追加データ3 (Green box):** Includes '項目名' (追加データ3), '入力桁数' (最大 13, 最小 1), 'データ形式' (文字列), 'データ表示' (標準), 'バーコード使用' (checked), 'バーコード読取', and 'マスター参照' buttons.
- Bottom (Yellow box):** Includes 'OK表示時間' (30 1/10秒), 'NG表示時間' (30 1/10秒), 'OKブザー設定', and 'NGブザー設定' buttons. An annotation points to this section with the text 'OK 表示, NG 表示の時間とOKブザー, NGブザーの鳴動を設定します'.

An annotation 'ここをクリック' points to the '照合条件' item in the left sidebar.

# ①照合元／照合先のバーコード読取設定

照合元 バーコード読取設定 (BHT-1500)

読取バーコード

☐ JAN/EAN/UPC ☐ 雑誌コード

☐ ITF ☐ なし ☒ あり ☐ STF ☐ なし ☒ あり

☐ NW7 ☐ なし ☒ あり ☐ Code39 ☐ なし ☒ あり

☐ Code93 ☒ GS1-128/EAN-128/Code128 ☐ GS1 DataBar

☐ ユーザー定義

読取桁数 最大 50 桁 最小 1 桁

☐ JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換

☐ ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない

データフォーマット 固定長

☒ データチェックを使用する

チェックデータ位置 1 桁目から

チェックデータ

チェック方法 一致しなかったら入力エラー

照合データ数 5

照合データ	バーコードデータ	桁
照合データA	1 桁目から 10 桁	10
照合データB	11 桁目から 10 桁	10
照合データC	21 桁目から 10 桁	10
照合データD	31 桁目から 10 桁	10
照合データE	41 桁目から 10 桁	10

☒ 指定文字を削除する 削除する文字

キャンセル 確定

照合データ数（1～5）を選択して、照合に使用するデータを設定します。この照合データを使用して照合条件を設定します。

設定項目	説明
読取バーコード	使用するバーコードをチェックします。複数バーコードの設定が可能です。読取バーコードを独自に設定する場合は、ユーザー定義をチェックしてバーコード読取内容を入力します。ユーザー定義の場合はチェックしたバーコードの読取は無効になります。
読取桁数	読取桁数の最大と最小を設定します。(1 ～ 3000) NW7 の場合はスタート/ストップキャラクタを含めた桁数を設定します。読取バーコードが最小桁数未満または最大桁数を超える場合は、「バーコード 桁数エラー」と表示します。
GTIN 変換	「JAN/EAN/UPC を GTINコードに変換」をチェックすると、JAN/EAN/UPC のバーコードを読取った場合に GTINコードに変換します。
ITF, STF, NW7, Code39 のチェックデジットをデータに含めない	「ITF/STF/NW7/Code39 のチェックデジットをデータに含めない」をチェックすると、ITF/STF/NW7/Code39 においてチェックデジットを設定してバーコードを読取った場合、チェックデジットを除いたデータになります。
データフォーマット	バーコードのデータフォーマットを「固定長」、「カンマ区切り」、「スペース区切り」、「タブ記号区切り」、「CR記号区切り」、「区切り記号指定」から選択します。データチェック、照合データで使用します。
データチェック	「データチェックを使用する」をチェックして、チェックするデータ位置とデータを設定します。チェック方法は、「一致しなかったらエラー」、「一致したらエラー」から選択します。
照合データ数	読取ったバーコードの部分データを照合データとして設定する数を選択します。(1 ～ 5)
照合データ先頭から桁数	照合にしようとするデータを設定します。1 桁目から 99 桁と設定すると、バーコードの全データを照合データとします。
指定文字を削除	選択したデータから指定した半角文字を削除して入力データにします。3 文字まで指定できます。

## ②マスター参照設定

照合と情報表示に使用するマスター参照データの設定をします。

設定項目	説明
マスターファイル	マスター参照に使用するファイルを設定します。 <b>マスター参照を使用しない場合は空欄にしてください。</b>
検索キーフィールド	検索するフィールド No を設定します。 入力範囲 1 ～ 2 5
検索キーデータ	バーコード読取設定において設定した照合データを検索するキーとちて設定します。
検索データが存在しない場合エラー	設定すると、検索データがマスターファイルに存在しない場合、エラーにします。
情報表示データ参照	マスター参照データの情報を画面に表示する場合にチェックしてください。
表示データフィールド No	情報表示データのフィールド No を設定します 入力範囲 1 ～ 2 5
照合データ数	マスターファイルから取得する照合データ数 (1 ～ 5) を選択してください。 <b>照合データを取得しない場合は 0 にしてください。</b>
照合データを取得するフィールド No	マスターファイルから取得した参照データを照合データに設定します。入力範囲 1 ～ 2 5

### ■ファイル名

ファイル名は、HT 内のファイル名と重複しないように、下記の書式で入力してください。

<大文字半角英数字 1 ～ 8 文字>、<拡張子 (大文字半角英数字 1 ～ 3 文字)>

(拡張子に PD3, PD4, EX3, FN3, FLD, EXE, BAT, DLL, JPG, ZIP, TMP を使用しないでください。)

フィールド情報ファイル (. FLD) は、下記の書式で作成してください。

<フィールド 1 桁数>、<フィールド 2 桁数>、<フィールド 3 桁数>、・・・、<フィールド N 桁数>

設定フィールド桁数範囲：1 ～ 2 5





### ③照合条件設定

読み込んだバーコードから取得した照合データと既に取り得している照合データの照合条件を設定します。

設定項目	説明
照合条件	照合条件を満足した場合にOKを表示します。 条件A, 条件A and 条件B, 条件A and 条件B and 条件C, 条件A and 条件B and 条件C and 条件D, 条件A and 条件B and 条件C and 条件D and 条件E から選択します。選択により条件A～条件Eの設定に必要な条件を表示します。
条件A～E	バーコードから取得した照合データと既に取り得している照合データを設定します。

条件の左はバーコード読取で取得した照合データから選択し、右は既に取り得している照合データとマスター参照により取得した照合データから選択します。

[照合元データA]～[照合元データE]の表示は、照合元のバーコード読取で設定した照合データです。

[照合元マスターA]～[照合元マスターE]の表示は、照合元のマスター参照で設定した照合データです。

[照合先1データA]～[照合先1データE]の表示は、照合先1のバーコード読取で設定した照合データです。

[照合先1マスターA]～[照合先1マスターE]の表示は、照合先1のマスター参照で設定した照合データです。

## ●OK／NGブザー設定

OK表示時間	30	1/10秒	NG表示時間	30	1/10秒
OKブザー設定			NGブザー設定		

OK／MGを表示する時間を、1／10秒単位で0～99の数値を設定します。  
0を設定した場合は表示しません。99を設定した場合は表示し続けます。

OKブザー設定

周波数	1	Hz	鳴動回数	1	回
鳴動時間	5	1/10秒	休止時間	1	1/10秒
動作デバイス	ブザー				
キャンセル			確定		

周波数，鳴動回数，鳴動時間，休止時間  
を使用してブザー，バイブレータを動作  
させます。

設定項目	説明
周波数	0=低音 1=中音 2=高音 62～5000Hz 3～61 の値は設定できません。 0, 1, 2 を設定した場合、「LCD コントラスト/ブザー/バイブレータの調整画面」でブザー音量を変更 することができます。 62～5000Hz を設定するとブザーの音量は最大となり、変更することができません。
鳴動回数	0～99 0 を設定するとブザーは鳴りません。
鳴動時間	1～99 1/10 秒単位で設定
休止時間	1～99 1/10 秒単位で設定
動作デバイス	ブザー，バイブレータ，ブザー＋バイブレータから選択

### 3) データ保存

「データ保存」をクリックし、[照合結果を保存する] をチェックして設定してください。

照合+数量入力 照合プログラム設定 (BHT-1500)

ここをクリック → **データ保存**

☒ 照合結果を保存する

保存ファイル A.TXT      保存フィールド数 11

保存条件 照合OK      重複データ保存 許可

フィールド	データ区分	桁目	桁数
フィールド1	データ区分1	1 桁目から	6 桁
フィールド2	データ区分2	1 桁目から	10 桁
フィールド3	データ区分3	1 桁目から	20 桁
フィールド4	照合元バーコード	1 桁目から	13 桁
フィールド5	照合先バーコード	1 桁目から	13 桁
フィールド6	追加データ1	1 桁目から	13 桁
フィールド7	追加データ2	1 桁目から	13 桁
フィールド8	追加データ3	1 桁目から	13 桁
フィールド9	OK	1 桁目から	2 桁
フィールド10	日付A(YYYY/MM/DD)	1 桁目から	10 桁
フィールド11	時刻A(HH:MM:SS)	1 桁目から	8 桁

重複データ保存を禁止する場合、重複禁止するデータのフィールド No を設定します。重複保存を許可する場合は、許可に設定します。

設定項目	説明
保存ファイル	保存するファイル名を設定します。HT内のファイル名と重複しないようにしてください。 <大文字半角英数字 1～8 文字> . <拡張子 (大文字半角英数字 1～3 文字)> (拡張子に PD3, PD4, EX3, FN3, FLD, EXE, BAT, DLL, JPG, TMP を使用しないでください。)
保存フィールド数	保存するデータのフィールド数を最大 16 フィールドまで設定します。
保存条件	照合OK, 照合NG, 照合OK/NG から選択します。 照合OK: 照合OKになった場合にデータを保存 照合NG: 照合NGになった場合にデータを保存 (エラー表示した場合はデータ保存しません) 照合OK/NG: 照合OKと照合NGの場合にデータを保存
重複データ保存	重複データ保存を禁止するフィールドを設定してください。 許可を設定すると重複データ保存を許可します。

## ■ 保存フィールド設定

フィールドデータとして、H t N o、データ区分、照合元バーコード、照合先バーコード、OK、NG、OK/NG、照合数、照合日付、照合時刻 から選択します。

フィールドデータ	説明
H t N o	アシストパックのサブメニューにおける 3. HtNo 設定で設定した数値。
データ区分 1 ~ 3	データ区分を設定した場合のみ設定できます。
照合元バーコード	照合元において読み取ったバーコードデータ
照合先バーコード	照合先において読み取ったバーコードデータ
追加データ 1 ~ 3	追加データを設定した場合のみ設定できます。
OK	“OK”
NG	“NG”
OK/NG	“OK” or “NG”
照合数	HyNo, データ区分, 照合元バーコード, 照合先バーコード, OK/NG が一致する数を保存します。 追加データを設定した場合は照合数を設定できません。
日付 A (YYYY/MM/DD)	タイムスタンプで Y Y Y Y / M M / D D ( 1 0 桁 ) を保存します。
日付 B (YYYYMM/DD)	タイムスタンプで Y Y Y Y M M D D ( 8 桁 ) を保存します。
日付 C (YY/MM/DD)	タイムスタンプで Y Y / M M / D D ( 8 桁 ) を保存します。
日付 D (YYMMDD)	タイムスタンプで Y Y M M D D ( 6 桁 ) を保存します。
時刻 A (HH:MM:SS)	タイムスタンプで H H : M M ; S S ( 8 桁 ) を保存します。
時刻 B (HHMMSS)	タイムスタンプで H H M M S S ( 6 桁 ) を保存します。
時刻 C (HH:MM)	タイムスタンプで H H : M M ( 5 桁 ) を保存します。
時刻 D (HHMM)	タイムスタンプで H H M M ( 4 桁 ) を保存します。

データ区分、照合元バーコード、照合先バーコード、追加データの場合、保存するデータの先頭位置と桁数を設定します。  
H t N o と照合数は桁数（保存桁数）を設定します。

フィールド 1 データ区分  桁目から  桁

上記の場合、データ区分の 1 桁目から 16 桁のデータを保存します。

「9999 桁目から 16 桁」と設定した場合は、「末尾から 16 桁」のデータを保存します。



#### 4) 設定更新

[更新] をクリックすると設定データを更新します。設定は業務設定データに保存します。

照合+数量入力 照合プログラム設定 (BHT-1500)

データ区分  
照合条件  
データ保存  
キャンセル

ここをクリック → **更新**

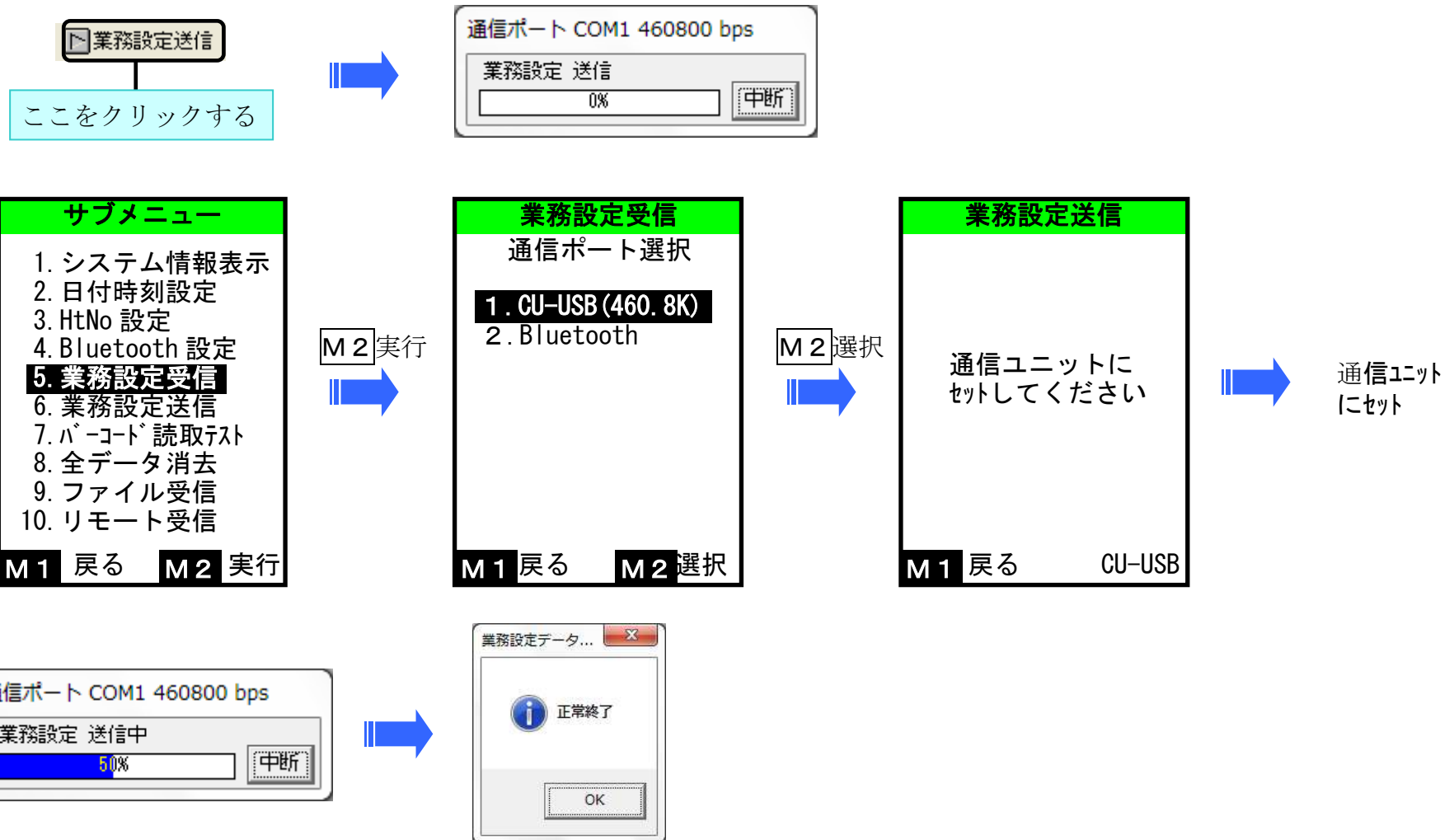
☒ 照合結果を保存する  
保存ファイル A.TXT  
保存条件 照合OK  
保存フィールド数 11  
重複データ保存 許可

フィールド1	データ区分1	1	桁目から	6	桁
フィールド2	データ区分2	1	桁目から	10	桁
フィールド3	データ区分3	1	桁目から	20	桁
フィールド4	照合元バーコード	1	桁目から	13	桁
フィールド5	照合先バーコード	1	桁目から	13	桁
フィールド6	追加データ1	1	桁目から	13	桁
フィールド7	追加データ2	1	桁目から	13	桁
フィールド8	追加データ3	1	桁目から	13	桁
フィールド9	OK	1	桁目から	2	桁
フィールド10	日付A(YYYY/MM/DD)	1	桁目から	10	桁
フィールド11	時刻A(HH:MM:SS)	1	桁目から	8	桁

## 2-3 業務設定更新

アドイン入出荷検品を設定した業務設定に更新します。

新規作成 開く 保存 送信データ一覧表示 **業務設定送信** 業務設定受信 閉じる 終了



### 3 アドイン照合プログラム実行

業務メニュー ▼

1. バーコード照合

F1 Ver SCAN 送信 M2 実行

M2 実行



バーコード照合

データ区分

M1 終了 M2 確定

データ区分を設定した  
場合にのみ表示します。



照合画面

### 3-1 照合処理画面

**バーコード照合**

照合元

.....

M1 戻る M2 確定

照合元  
バーコード  
読取



M1 戻る

データ区分を設定しない  
場合は「終了」を表示します。

照合元入力：  
キーとバーコードの入力可能です。  
照合先入力：  
バーコード入力のみ。

**バーコード照合**

照合元  
4912345678901

照合先

M1 戻る

照合 OK



照合 NG



**バーコード照合**

照合元  
4912345678901

NG

データ保存条件が照合 NG,  
照合 OK・NG の場合に  
データを保存します。

**バーコード照合**

照合元  
4912345678901

OK

追加データを設定  
しない場合、  
照合終了すると  
次の照合元コード  
読取画面へ



データ保存条件が  
照合 OK, 照合 OK・  
NG の場合にデータ  
を保存します。



追加データ項目  
を設定した場合

**バーコード照合**

追加データ

.....

M1 戻る M2 確定

次の照合元コード  
読取画面へ





### 3-2 入力／データ処理エラー表示

入力またはデータ処理時にエラーが発生すると、最下位行にエラー状況を表示し、ブザーまたはバイブレータで警告します。

エラー	エラー表示	内容
未入力エラー	未入力エラー	1桁の入力もしないで入力確定した場合
入力文字数エラー	入力文字数エラー	最小入力桁数以下のデータ入力において、入力画定した場合
入力文字エラー	入力文字エラー	数字（0 詰め表示）と数字（0 サプレス表示）のデータ形式において、バーコードにCODE 3 9, CODE 9 3, CODE 1 2 8 など数字以外のデータを扱うバーコードを設定して、数字以外の文字を読み取った場合
入力値エラー	入力値エラー	日付または時刻のデータ形式において、入力できない値を入力した場合（例：日付のデータ形式において、月の値に 20 を入力した場合）
バーコード 桁数エラー	バーコード 桁数エラー	バーコード読取桁数が設定範囲外の桁数の場合に発生します。
バーコード 長オーバー	バーコード 長オーバー	バーコード読取桁数が 3 5 0 0 桁を超えた場合に発生します。
データチェックエラー	データチェックエラー	設定したデータチェックにおいてエラーになったの場合
バーコードデータエラー	バーコードデータエラー	部分照合モードにおいて、フォーマットが「カンマ区切り」, 「スペース区切り」, 「タブ記号区切り」, 「CR記号区切り」の場合、読み取ったバーコードデータに必要なデータ数がない場合
マスターファイルがない	マスターファイルがない	文字列表示用マスターファイルまたは照合マスターファイルがない場合
マスターに未登録です	マスターに未登録です	マスターファイルに検索データがない場合
重複保存エラー	重複保存エラー	指定した保存フィールドのデータが重複するする場合
処理エラー	処理エラー	上記以外エラー

データ保存設定の場合、上記のエラーが発生した場合はデータを保存しません。



### 3-3 照合データ送信

未送信のデータが保存されている業務の左に ▶ を表示します。送信したい業務を選択して **SCAN** キーを押します。

業務メニュー ▼

▶ 1. バーコード照合

F1 Ver SCAN 送信 M2 実行



バーコード照合>送信

通信ユニットに  
セットしてください

M 1 戻る CU-USB



バーコード照合>送信

送信中  
00001

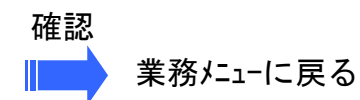
M 1 中断 CU-USB



バーコード照合>送信

送信終了

M 2 確認



未送信の保存データがあると  
業務メニューに▶を表示します。

### 3-4 マスターファイル受信

業務メニューにおいて **S F+0** を押すとファイル受信状態になります。

